

問題No.1

工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 施工者選定についての助言
2. バーチャートの作成
3. 関係図書の建築主への提出
4. 施工計画書を検討し、助言する業務

【解説】

2. 施工者が作成する工程表である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 369

答 2

問題No.2

工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 模型、材料及び仕上げ見本の検討及び承諾
2. 労働安全、安全衛生対策に対する助言
3. 必要に応じて主任技術者または監理技術者の選任
4. 代替提案（VE）の評価

【解説】

3. 主任技術者、監理技術者の選任は、施工管理業務の一部である。

答 3

問題No.3

環境や安全への配慮に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度は、工場や建設現場などから排出される産業廃棄物の処理に際して、CO₂の排出削減目標を割り当てる制度である
2. PL法（製造物責任法）とは、製造物の欠陥によって損害を被った場合に、被害者は販売業者に対して損害賠償を求めることができるという被害者救済を目的とした法律である
3. 労働安全衛生法は、元請業者の義務として、下請け業者の労働者も含めて施工現場における労働者の安全と衛生を確保し、快適な作業環境の形成促進を目的とする
4. 瑕疵担保責任とは、施工者の工事に欠陥があった場合、施工者は発注者および監理者と協議し、工事全般に瑕疵の調査を行う義務をいう

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 372～375、386

問題No.4

積算・見積りに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 各種の積算データを活用して工事費を算出する
2. 発注者の投資計画にはランニングコストも含める
3. 単価の種類は、単価、複合単価、合成単価に分類される
4. 工事費の構成は直接工事費と間接工事費である

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 379～381

問題No.5

積算・見積りと工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

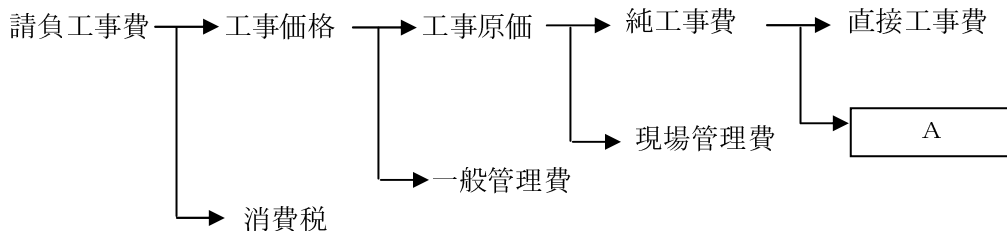
1. 基本設計段階での積算業務には維持管理上のランニングコスト算出、施設のライフサイクルコスト（LCC・生涯費用）算定がある
2. 見積書の工種別書式は、施工者が直接工事費及び工程の管理などに便利な方法である
3. 見積り合せとは、発注者が一定の資格者の中からの確と判断した複数の施工者を指名して入札させる方式である
4. 積算・見積り書作成時、積算にあたっては、図面並びに仕様書の内容を完全に理解しなければならない

【解説】

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 379～385

問題No.6

工事費の構成に関する次の表で、A に入る語句のうち、最も不適当なものはどれか。



1. 運搬費
2. 共通費
3. 直接仮設費
4. 共通仮設費

【解説】

積算体系上の工事費の構成を示したもの。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.380

答 4

問題No.7

工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コストオン発注方式は、一式請負方式と共同請負方式をミックスさせた請負方式で全体の工事費をオンした金額で建設会社と契約する方法である
2. 直営方式とは、発注者が自ら施工部門を組織して、工事を完成させる方式である
3. 随意契約とは、発注者が任意に選定した特定の請負者に対して発注する方式である
4. 一般的に随意契約の決め方には、特命随意契約と見積り合わせの二つがある

【解説】

1. コストオン発注方式は、一式請負と分割請負をミックスさせた方式。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.384～385

答 1

問題No.8

組積・レンガ・ALC工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 一日のコンクリートブロックの積み上げ高さを1.6m以下とする
2. コンクリートブロックの種類は、強度の小さいほうから順にA種、B種、C種とあり、用途によって使い分ける
3. レンガは吸水率が高いので、施工前には十分に乾燥させてから積む
4. ALC (Autoclaved Lightweight Concrete) とは、軽量気泡コンクリートの略であり、パネル状のものが屋根・床・壁などに使用される

【解説】

3. レンガは吸水率が高いので、積む前いちど水で湿らせてから積む。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.388

答 3

問題No.9

石工事に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. 大理石は酸に強いため、酸性雨対策として、外壁に使用される
2. すべりやすい部分の床での石張り工事であったので、その防滑対策として本磨き仕上げとした
3. 床石工事において、床仕上げの工法として敷きモルタル工法があるが、仕上げしろは、石厚と同等の厚さが必要である
4. 壁面石張り仕上げの空積み工法に用いられる引き金物、だぼ、かすがいなどはステンレス（SUS304）が使用される

【解説】

1. 酸性に弱い 3. 仕上げしろは石厚の2.5~3倍程度が望ましい 改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.390

答 4

問題No.10

建具工事に関する次の語句の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. フラッシュ戸 ----- 見えがかりに框なし
2. 建具用金物 ----- リーシング
3. 自閉式上吊り引戸 ----- バリアフリー
4. 大きい開口部の防火設備 ----- 重量シャッター

【解説】

2. リーシングは不動産用語で、空室の店舗への入居の仲介を行うことをいう。なお、建具金物では、シリンドラーという施錠部分の鍵穴部分の用語がある。改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.395~401

答 2

問題No.11

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. クリヤラッカー塗装は、木製家具・什器などに適し光沢が自由であるが、耐溶剤性はあまりよくないため注意が必要である
2. 油性調合ペイントは耐水性があるが、耐アルカリ性に欠けるためコンクリート面やモルタル仕上げには適さない
3. ポリウレタン塗装は、耐水性があり、仕上げも美しいため、木製家具などの仕上げに用いられる

4. メラミン樹脂焼付け塗装は金物什器やサッシなどに用いられ、その仕上げの美しさを保つために、現場にて塗装を行う

【解説】

4. メラミン樹脂焼付け塗装（メラ焼き塗装）は工場の窯にて行い、現場にて焼付けはできない。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 397～398

答 4

問題No.12

ガラスに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 耐火ガラスは鋼製枠と一体で防火設備に使用できるが、火災による熱は通してしまう性質があるので注意が必要である
2. 強化ガラスは通常の板ガラスに比べ3～5倍の強度があり、防犯用に優れたガラスである
3. 熱線吸収板ガラスは、透明ガラスに比べて熱割れしやすい性質がある
4. 非常用進入口にガラス窓を設ける場合、外部から容易に割れること、もしくは手で開けられる構造にしておかなければならない

【解説】

2. 強化ガラスは割り方によっては容易に割れ、防犯効果は小さい。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 412～414

答 2

問題No.13

断熱材・防火材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断熱材の性能は熱伝導率で表され、0.1以下の性能を有する材料のことを指し、水分を含んでも断熱性が大幅に低下することはない
2. 防火材とは、建物などの可燃性材料やそれに類する材料、ものを火災から防ぐために用いられる
3. 材料の防火性能とは火災等により変形・発熱しないことを指し、使用の際は発煙量、有毒ガスの発生などに留意する
4. 鉄骨柱に使用される耐火被覆材は、その性能と厚さによって耐火時間の性能が認められる

【解説】

1. 水分より著しく低下する。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 424～426

答 1

問題No.14

材料の防火性能に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 準不燃材料とは、加熱開始後 20 分間は燃焼したり変形したりしない、また避難上有害なガスや煙が発生しない材料である
2. 防炎処理は、カーテン、どん帳、じゅうたんなど、火がつくと急激に燃え上がることを防止する目的で、消防法に規定される
3. ガラスブロックは比較的火災に強い材料であり、防火区画を形成できる場合もある
4. 内装制限における防火性能は、壁紙単体ではなく、下地との組み合わせで認定される

【解説】

1. 加熱開始後 20 分間ではなく 10 分間である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 430～431

答 1

問題No.15

建築材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 太陽光を反射させる塗料を屋根に塗ることで、建物の温度上昇を抑えることが可能である
2. リサイクル材を使用するのは良いことだが、建築環境総合性能評価システム（CASBEE）による建物全体の評価には寄与しない
3. 保水性のあるインターロッキングブロックは、雨の日に吸収した水分を晴れの日に蒸散させ、路面の表面温度を下げることができる
4. 日本国内で産出されたスギ、アカマツ、ヒノキなどの間伐材を使用することは、地球温暖化対策上、理にかなっている

【解説】

2. リサイクル材の使用は、CASBEE による評価にも有効である。

答 2